

NPO 法人「三郷サンサンハウス」ニュースNo.26

新しい年を迎えましたが、皆様お元気でいらっしゃいますか。

昨年の酷暑を乗り越えながら、厳しい寒さの中他界される利用者の訃報に、職員は懐かしい姿を偲び、つらい気持ちを抑えながら今日も明るく元気に働いています。



一方、どの事業所にも（サロンにも）90歳代の利用者がふえ、周りが元気づけられています。

サンサンハウスは平成16年1月の創業から7年が過ぎ、ずいぶん成長しましたが、未だに、紆余曲折、試行錯誤の連続です。職員が働きやすい職場をめざし「職場・家庭生活両立支援対策」に力を入れていますが、基本的には家族の生活が成り立つ賃金の保障が一番です。

そのためには、福祉の仕事がもっと大事にされなければ、事業者の努力だけではどうにもならない所まできています。次の介護保険の改定ではこの窮状にますます拍車がかかる危険があります。

サンサンハウスとしても新しい道を模索していますが、制度や政治姿勢が変わらなければ根本的な解決策はありません。利用者や職員の暮らしがもっと大切にされる社会にすることが、私たちに与えられた課題となっています。

今年も、職員一同「笑顔のあふれた居場所づくり」に邁進してまいりますので、皆様の温かいご指導ご援助をよろしくお願い申し上げます。

上野 登志子

ヘルパーステーション

☆☎32-3535☆

今年に入って私の住んでいる地区で町の社協による住民懇談会がありました。懇談会は少子高齢化で私たちの団地も最近お年寄りが増え、その対策の為に行われたものです。私たちの地区は坂道の高台にある200戸ほどの団地で一人暮らしや介護の必要なお年寄りが増え、買い物などの外出の時に困っていること、また、認知症の一人暮らしの方の火の元が心配だというような意見が出ました。お手伝いをしたときに、相手からかえって気を使われてどうしたらいいか戸惑ったという経験も報告されました。皆さんの意見を聞いていますと、隣近所だけでは対応が難しい面もあり、考えさせられました。

岸根 洋子

岸根さんの地域のようにご近所の方を心配してもどのように関わっていいかわからないこと、逆に関わろうとしてみてください方にもどのようにお断りしていいかわからないことがありますよね。ご近所や家族だけで対応される難しさは多々あると思います。その為に社会の責任で介護がご家族の負担にならな



い為に介護保険制度が作られましたので、是非ご利用いただきたいと思います。しかし介護保険で使えるヘルパーは身体介護だと30分から、生活援助では長くても1時間半となっていますので、一回の利用が30分から2時間以内の方がほとんどです。その為、昔で言うおせっかいがとても大切になると思います。地域のネットワークや民生委員の方々、近所の方と、私たちのような事業所との連携によって私たちの住んでいる地域が、安全で安心な環境になっていくため、微力ながら力を合わせたいと思います。

管理者 岡本真弓

居宅介護支援事業所

☆☎32-3535☆

「母が大阪赤十字病院に入院しているの。2回危篤状態に陥ったけど今は持ち直して、人工呼吸器をつけたままでも自宅で介護できるかなあ？自宅に帰れるのならケアマネになってほしい。」と、知り合いのHさんから連絡を受けたのが12月の初めでした。気管切開をして太い管を挿入する人工呼吸器を想像した私は少しびっくりしましたが、Hさんの一生けん命な訴えに何とか希望が叶えられる方向で寄り添いたいと思いました。



12/22に初めて病室で彼女のお母様にお会いしました。寝たきりで目を閉じておられ、中心静脈栄養の点滴に繋がれ、バルーン留置（管で排尿）、枕元には私が知らなかったバイパップという呼吸をサポートする人工呼吸器がありました。夜間12時間だけ使用されているとのことで、マスクの跡のアザが痛々しいでした。

娘であるHさんの呼びかけに目を開けられて、うんうんと頷かれますし「家に帰りたいですか？」と声をかけると「帰りたい」と、か弱い声ですが、はっきりと返事が返ってきました。



主治医、婦長、担当看護師、退院支援相談員、そしてHさん夫婦と、もし退院できた時には介護保険のサービスを使えば在宅で生活出来る方法をと真剣に話し合いました。皆の真摯な態度に、主治医も安心して在宅介護が行えると言ってくれました。

その後、1/20に退院前カンファレンスの為に再度病院に行き、病室のお母様にお会いして驚きました。娘さんから「家に帰れるよと母に伝えてから、どんどん元気になっているのよ。」という報告は受けていましたが、約一か月の間にまるで別人になっておられました。点滴のチューブが外れ三食とも口から食事が取れる様になり、バルーンも取れて娘さんの介助で病室のトイレまでゆっくりと歩かれたのです。前回の話し合いでは「口から十分な栄養を取ることは絶対にあり得ないです。中心静脈栄養の点滴は必須ですよ。」と主治医に断言されていたのですが・・・

でも肺気腫、心不全の既往があるので決して予断はゆるしませんが、ご本人の「もう一度頑張ろう！」という意欲と、ご家族の愛情があったからだと思います。

今、退院に向けて住宅改修にとりかかっています。このニュースが発行される時には自宅で過ごされていることでしょう。

ケアマネジャー 中川香代子

高齢者の家「あかねの里」

☆☎31-3536☆

昨年はお二人の方を亡くしたほか、Mさんは大腿部骨折で片足が立てなくなり、Nさんは食事介助が必要にまで弱られました。新入居者のYさん、1年前の手術入院のあと足腰も弱り歩くのが危なくなっていました。萌の里の担当職員たちが一人ひとりに必要な支援を検討し、根気強く援助を続けていました。最近、みなさん快方にむかわれ、1月24日のデイサービスでのお茶会にもそろって参加下さいました。2月1日には久しぶりに外食（バイキング）に出かけました。



あかねの里に昨年11月入居の許可を頂いたことは、昭和61年妻の病死以来25年間単身生活を続け、近年老化が甚だしく、気力も減退しておりました92歳の私にとって、この上ない吉報でした。心から感謝しています。入所したからには「尊厳、自立、共生」を順守し、既に入居しておられる皆様と楽しい生活を続けさせていただきますよう一層の努力をする覚悟であります。

末筆となりましたが、日々の私達の生活を懸命に支えて下さっている職員の皆様に心から御礼申し上げますとともに、今後も宜しくお願い致します。

土師 定之

デイサービス あかねの里

☆☎31-3536☆

2011年もスタートし、あかねの里のご利用者の方々もお変わりなく、お元気なお顔を見せて下さいました。



昨年後半は、馬見公園で目の前に広がる色とりどりのお花畑に歓声があがり、信貴山へのドライブでは鮮やかな濃淡の紅葉の美しさにうっとりし、初めての試みのお茶会も楽しみました。

年が明け7日には、ボランティアの方が摘んできてくださ

った七草を賑やかに、ひとつずつ確認しながら刻んでそのお粥をおいしくいただきました。そして先日は、座位での卓球で随分盛り上がりました。



皆さん真剣な表情をされ、思いがけず機敏（失礼）なラリーの様子に、隠された底時からを見せていただいたようで、驚くやら、うれしい気持ちにもなりました。

月末にはまたお茶会を催す予定です。今年もご利用の方々の思いを少しでも汲みとりながら様々な活動を通して穏やかななかにも、心地よい刺激のある、笑い声の絶えない楽しい時間を過ごしていただけるよう頑張らねばと思っています。 谷

小規模多機能ホーム 萌の里

☆☎33-3555☆

お陰様で萌の里は3月で5年目を迎えようとしております。

たくさんの出会いとご縁があったことに心より感謝しております。

開設から2年ほどはなかなか利用者さんが増えず、在宅生活を支えるのにこんなに適した介護保険制度はないのになぁ…と広めてゆけないことに歯がゆい気持ちでございましたが、今では20名を超える利用者さんを支援させて頂けるようになりました。緊急利用や支援の変更柔軟に動いてくれ小規模多機能らしい支援があるのもモチベーションの高い元気で明るい25名の職員さんたちのお陰です。

写真

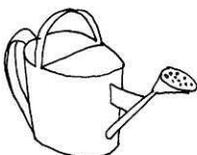
今回は、新人さんたちの自己紹介です。

☆横井秀子☆

昨年6月からあかねの里に介護士として勤務しています。92才の母の介護をしながら母のデイサービスの利用の日に介護の仕事に入らせてもらっています。子供の頃から家族に身障者がおり介護を手伝っていました。自分の祖母や舅、姑、叔母の介護もして来ました。現在では人は介護度により皆さんの状態が違うことの勉強をさせて貰いながら仕事をさせてもらっています。

クリスマスには、あかねの里フロアで童謡や歌謡曲、クリスマスソングをエレクトーンで皆さんと歌いながら楽しいひとときを過ごしました。利用者一人一人の気持ちを大切に楽しく仕事出来たらと願っています。

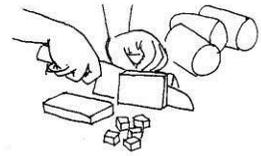
趣味は音楽、野菜・果物・花作り、手芸、旅行、映画です。



☆吉田さゆり☆

萌の里で働かせていただき、不安と期待の中、先輩方・利用者さんとの会話の中で、介護だけではなく、人生の勉強もさせていただいてます。この有り難い環境の中少しでも皆様のご期待に添えるよう、日々向上していきたいと思ひます。

よろしくお願ひします！



☆那住すみ☆

萌の里に 入社し早や5ヶ月が過ぎようとしております。勉強不足で地域密着型小規模多機能の知識（訪問、通ひ、泊り）ぐらひの事しか知らず 驚き!?感動・喜び・時々へこみの毎日です。



利用者さんお一人お一人の、望み・今一番やりたいこと・自己実現の為のお手伝ひが少しでもできたらいいのかなーって思ひています。

萌の里で出会えた利用者さん、スタッフの皆さんの、出会いを大切に、今日よりも明日、一歩でも成長できるよう頑張って参ります。

☆瀬尾千江☆

61才になってからの介護のお仕事です。利用者さんとお話させていただき、教えられる事ばかりです。縁あって知り合えた先輩たちに寄り添う気持ちを忘れずにもっといろいろな事を教わりたいと思ひています。どうぞ宜しくお願ひ致します。

☆森川恵美☆

もう一度、介護の仕事がしたいとの思ひから萌の里で働き始めました。いつも笑顔を決やさず、利用者さんと一緒に楽しい思ひ出を一つ一つ作っけていけたらと思ひています。これからもよろしくお願ひします。



☆狩野友代☆

介護の初心に戻るつもりで『萌の里』に來ました。よその施設ではできない行き届いた介護を目指し、スタッフさんが高い意識のもと、懸命に仕事をされているのを見るにつけ、一日も早く自分もお役に立てるよう 努力したいと思ひております。

☆上猶富美子☆

今まで経験したことの無いことも多く、今はとにかく1日も早く仕事に慣れるように努力したいと思ひます。そして利用者様と一緒に萌の里で、楽しみをひとつでも多く見つけていけたらいいなあと思ひています。



サンサンサロン

☆☎50-7970☆

新年を迎え、早々に新年会を開催しました。食事をしながらにぎやかに談笑したり、カラオケ、買い物など楽しい一日を過ごしました。



今年は昨年同様小物作りなどに加えて、楽しみながらできる体操など新しいことにもどんどん挑戦していきたいと思います。利用者さん

達が笑顔でサロンに来て「楽しい～」と言って頂けるようにがんばっていききたいと思います。

いつも送迎や活動のお手伝いをして下さっているボランティアさんの支えのおかげでサロンが活動できています。心よりお礼申し上げます。

ボランティアさん募集 利用者さんの送迎や小物作りを手伝っていただいたり、話相手になっていただけるボランティアさんを募集しています。

今年も宜しくお願いいたします。

サンサンサロンは共同募金から助成をいただいています。

愛ちゃん と 希望くん



©中央共同募金会

サンサン福祉タクシー

☆☎32-3536☆

一月は厳寒の時期、持病をお持ちの利用者さんにとっては、外出の機会も減り、それでなくても筋力低下ぎみの利用者さんにとって、体調不良になることの多い季節です。

いつもご乗車いただいた方には、テレビを見ながらでも手軽にできる体幹筋の維持の仕方をお伝えしているのですが、お正月のように特別な時期は、ほんの3日、散歩や筋力維持体操をサボってしまわれる方もままあり、その結果、正月明けの腰痛や膝の痛みを訴えられる利用者さんが増える時期です。

そんなこんなで、休み明けの病院は大混雑をみせ、中核病院では予約されている診療ですら2時間待ち3時間待ちが出て、利用者さんの帰りは行きよりグッタリされている方もおられました。

今年も利用者みなさんのご要望にお応えして、遠近に拘わらず安全に安心を乗せたタクシーとして、人身事故無事故記録を伸ばしてゆく所存です。

管理者 濱 正之